

口繪

●私立東京女學校開校式 ●赤堀峯翁
米壽園遊會 ●京都等持院 ●清國杭州
の風景 ●故戸田忠敬翁の筆蹟

重要目次

◀行發日一月六▶

每十二日
行發五日同月

第拾參年第一拾壹號



全廿拾六
部二部部
國部部部
無二部五
遞周拾拾
送料錢錢錢

- 家庭の藏書.....社 說
- 女子教育に於ける希望.....野 口 保 興
- 觀劇と其利害.....前 田 長 太
- マリ、テレス、ルイズ.....石 川 野 花
- 家政學講義.....磯 部 武 者 五 郎
- 婦人の心得.....土 肥 羊 二 郎
- 螢の話.....清 水 橘 村
- 經濟と婦人.....佐 藤 天 風
- 名婦の墳墓.....林 田 恒 茂
- 文字の讀方.....水 主 恒 茂
- 大阪博覽會見物.....幸 田 露 伴
- 小説緑不緑.....幸 田 露 伴
- 其他文林、教の庭彙報等.....幸 田 露 伴

少女讀本

雪之卷月之卷 花之卷(全部完成)

各定價拾八錢
郵稅四錢

華族女學校講師大宮兵馬著

中等日本文典

全一冊 定價五拾五錢
郵稅八錢

●本書は、文典初歩及文典の二冊を以て合本とし、中學程度の教科用に限らず、書中編述の事項は現今の普通文に向ひて、直に之を應用せしむべき方法を以て各條を規定し併せて之を通俗言語と比較して其差異ある諸點をも會得せしめんと務めたり。其程度配置の如きは著者が授業上の経験を以て基礎とす。雖もまた明治廿五年二月發表の中學校教授要目にも準則すること勿論なり。委しくは本書を閱讀して知るべし。

大宮兵馬著

國語漢文假字遣法

全一冊 定價金拾八錢 郵稅金二錢
●本書の特色は各種の語に就て其發音と假字遣を授くるに從來の如く生徒をして強て暗記せしめず別に新案を以て語原語意によりて自ら推理して會得せしむべき方法を用ゐたり。

株式會社 光國 東京築地二

電話 新橋 八八六三番
番 八三番

○女子作法夏季講習會廣告

官私各女學校教員及該教員志望者並に本學科研究志望者の爲に本年八月一日より凡十日間女子作法夏季講習會及女子割烹夏季講習會を東京市神田區一ツ橋通町帝國教育會内に開設す志望者は講習すべき學科及住所氏名を記して來七月二十五日迄に大日本禮節學會内夏季講習會事務所へ申込むべし

大日本禮節學會第二回女子作法夏季講習會要項

一講習學科(本年三月文部省訓令高等女學校作法要目を實修せしむ)
 ○座作進退○應對○受授進席○寢食服裝○訪問迎接○通信贈答○餐應公會○吉凶慶吊○忌服等の實習及心得

一擔當講師 日本式(帝室流)軍人式(伊勢流) 禮節家
 德川式(小笠原流)明治式(臣民流) 石井泰次郎君

(本會第一回は昨三十五年八月開設し實地應用教授法を講ぜしが未だ世間の作法教授法を一定するの要を得ず是高等女學校科日の一定の標準の完全せざりしに由る所多かりしなり然るを幸にして本年三月文部省令に高等女學校作法教授要目を一定して發表せられたるは實に舊來の作法に於ける無用の微風を一掃すべき時期を與へられたるなり同訓令に「現時の衣食住の情況に適合せしめん事に注意し座禮立禮を併せ授け實際に應用せしめん事を要す作法の實習は簡易なる方法に依り日常舉近の事項に限るべし」と掲げられぬ之本會の主旨とする所なれば舊て舊事の虚禮を廢し明治式の平民流を以て同訓令に「故禮故實に拍泥せず」とあるを守りて第一第二第三第四學年に對する作法教授法の學科を組織せんとする教員諸氏の爲に第二回女子作法講習會を開設し併て本學科の専門教師の爲に教授上の便益を計らんとす乞ふ進で參會して講習の實務を擧げられんことを希望す

大日本割烹學會第一回女子割烹講習會要項

○學科 料理師範 八世 石井治兵衛君 石井泰次郎君
 ○講師 料理師範 八世 石井治兵衛君 石井泰次郎君
 證明書 出席の度數を驗して授與す
 一講習料 左の割合に由り前納すべき事(作法と割烹を二科午前午一學科講習者)金貳圓 二學科兼習者 金參圓五拾錢
 但本會員(第一回作法講習會々員其他禮節學會々員)及大日本割烹學會々員は特に講習料五分の一を減す
 一講習申込書 (用紙牛紙)

私儀貴會開設の夏季講習會(女子何々)講習致度此段申込候也
 明治三十六年 月 日 府縣 町村 番地 何某女 之 誰 年月日生

大日本禮節學會御中

○婚禮技藝講習會

女子作法教師及同志望者の爲に八月十三日より七日間婚禮技藝講習會を開設す(會場右同)志望者は來八月五日迄に本會へ申込まるべし

一婚禮技藝講習會要項

一學科 ○實用組結 ○裝飾用組結 ○實用紙折形 ○裝飾用紙折形 ○普通婚禮式實習及心得 ○結納式 ○進物包形 ○水引懸方 ○實物雛形 ○婚禮式 ○神前床飾女蝶 ○蝶子 ○蝶子飾 ○飾斗包 ○模略 ○部方 ○諸祝物包形 ○金銀包末廣豆の粉包胡麻鹽包其他實物 ○現今に應用すべき古式及明治式に依て講習す
 一證明書及申込式右に同じ
 一講習料 金參圓 (會員は五分の一を減す) ○作法又は割烹兼習者同上
 講習に要する實物製作原料品は自辦たるべし

明治三十六年五月

東京市京橋區鈴木町十一番地
 大日本禮節學會内
 夏季講習會事務所

國文教科講習參考書

文學博士萩野由之序 關儀一郎註釋

●駿臺雜誌註釋 正價十五錢 郵稅八錢

落合直文閣 中萩秋香序 栗島山之助、井上覺藏著

●大和物語詳解 郵價四十五錢 郵稅六錢

●國學院講習會講義 郵價六十五錢 郵稅八錢

●神皇正統記講義 今泉定介著 郵價七十五錢 郵稅十錢

●更科日記講義 大塚彦太郎著 郵價三十錢 郵稅四錢

●徒然草講義 伊藤平章講義 郵價二十錢 郵稅三錢

●今泉定介講義 土佐日記講義 正價二十錢 郵稅三錢

●文學博士 萩野由之補 太平記註釋 正價七錢 郵稅一錢

●中萩秋香述 落窪物語講義 三正價 郵稅五錢

●紫式部日記講義 三木正價 郵稅六錢

●增田子信 生田日經德兩氏講義 全三冊 四百餘頁 實價六十錢 郵稅十錢

●新註古今和歌集講義 實價六十錢 郵稅十錢

●文學博士 黒川眞頼 飯田武鄉兩氏校閱並序 松平靜著

●枕の草紙詳解 全三冊 郵價四十五錢 郵稅六錢

●十六夜日記講義 三木正價 郵稅四錢

●今泉定介講義 方丈記講義 正價二十錢 郵稅四錢

●講義 鳥山健 百人一首講義 正價十五錢 郵稅二錢

●竹取物語講義 今泉定介著 郵價二十錢 郵稅三錢

●伊勢物語講義 今泉定介著 郵價廿五錢 郵稅四錢

●御伽草子 今泉定介校 郵價七十五錢 郵稅十錢

●御伽草子 鳥山健校 郵價七十錢 郵稅九錢

●保元物語講義 二冊 正價七十錢 郵稅十錢

●平治物語講義 今泉定介著 郵價八十錢 郵稅十錢

●平家物語講義 今泉定介著 郵價六十錢 郵稅八錢

●全部映入美裝 金三圓卅錢 郵稅貳拾錢

●東關紀行 鳥中述 郵價廿五錢 郵稅四錢

●國史學の葉 文學博士 鳥中述 正價五十錢 郵稅六錢

●動詞形容詞活語集 松本大著 郵價八十錢 郵稅十錢

●日本俗語文典 三松著 郵價八十錢 郵稅十錢

●正文文章軌範講義 全三冊 郵價五十錢 郵稅六錢

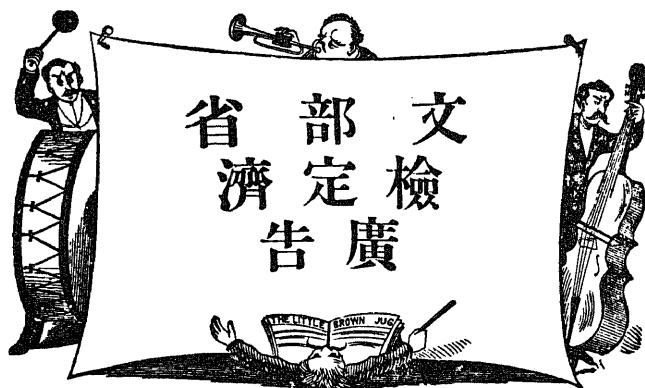
●論語講義 花輪時之助 正價七十錢 郵稅十錢

●孟子講義 深井鑑一 正價七十錢 郵稅十錢

●孟子講義 深井鑑一 正價七十錢 郵稅十錢

出版所 東京電 神本局 田九局 鍛九局 町四番 誠之堂書店 購誰 客著 誠は 堂と 誠之 堂と 出版 名指

明治三十四年二月廿八日
第三種郵便物認可



發行以來唯一の完全な唱歌教科書と
を博し非常なる大喝采
をして非僅々數月間に
三版發行は今回其
生徒の本用共文
部省の檢定を経て更
らに其眞價を發揮す
るの榮を得たり
從來世に刊行定濟と
歌集は悉く参考書と
即ち教師の用と
しめて許可せられたる
のみ許可せられたる
の眞實な教科書とし
て檢定を経たもの
は實に本書の如く全
該科の教授上最も知
るに足るべき完全な

唱歌教科書

空前の唱歌良教科書！
檢定済生徒用唱歌教科書の嚆矢
文部省檢定済

郵税一冊に就き金四錢

生徒用	教師用
全四冊	全四冊
第一卷定價金三十錢	第一卷定價金三十錢
第二卷定價金三十錢	第二卷定價金三十錢
第三卷定價金三十錢	第三卷定價金三十錢
第四卷定價金三十錢	第四卷定價金三十錢

洋琴 金參百圓以上 各種

ウワイオリン 各種

鈴木製 金五圓以上五拾圓迄 各種
舶來品 八圓以上百五拾圓迄 各種

樂隊用樂器

大太鼓 金貳拾圓以上 小太鼓 八圓半以上 シンバル 金四圓以上 其他 バス、バットン、テナリ、アルト、コルネット、トロンボン 等 金貳拾圓以上 百六拾圓迄

鼓隊用樂器

太鼓 金貳拾圓以上 橫笛 金壹圓以上
○學校用一組拾參圓

手風琴 金貳圓五拾錢以上 參拾圓迄 各種

保險 附 山葉風琴 定價金拾六圓五拾錢 以上 金貳百圓迄

○右の外兩用風琴、吹奏琴、ハーモニカ、フラジヨ、レット 其他 各樂器並に和洋音樂附屬品 各種

ピアノ、調律修繕

郵券貳錢 目錄進呈